

令和7年(2025年度)
事業計画

学校法人和風会
多摩リハビリテーション学院専門学校

目 次

①学校法人和風会

概 要

沿 革

名称・所在地

役員・評議員

学校関係者評価委員

和敬清寂委員

②多摩リハビリテーション学院専門学校

教職員

各種委員会

各学科

(1)作業療法学科

(2)理学療法学科

(3)言語聴覚学科

(4)介護福祉学科

学校法人和風会設立概要

現在、我が国の保健・医療・福祉・教育を取り巻く状況は急速に変化しており、各方面ではさまざまな構造改革が進んでいます。このような状況の中で私たちが取り組む必要のある課題は山積しており、設立母体である医療法人社団和風会では、東京都西多摩地区、埼玉県西部地区を中心に地域医療を展開し、急性期から慢性期の医療だけでなく自立支援できるよう早期からリハビリテーション事業に着手して参りました。さらに予防医学を基本としたリハビリテーションにも着目し生活習慣病の運動療法を取り入れた施設を開設、展開し、リハビリテーションを核に先駆的役割を果たしております。

その様な状況下、医療法人社団和風会の中で人材養成を担当する前身の多摩リハビリテーション学院では、リハビリテーション専門職の人材育成が急務であると感じ、平成 8 年 4 月に作業療法士養成施設（昼間部 4 年制）開設を皮切りに、翌平成 9 年には理学療法学科（昼間部 4 年制）、平成 10 年には言語療法学科（夜間部 4 年制）、平成 15 年に言語聴覚学科（大卒者 2 年課程）を年々学科増設しました。その後リハビリテーション養成分野に大学などの参入もあり差別化を図るべく、平成 20 年 4 月に作業療法学科を 4 年課程から 3 年課程に、平成 21 年 4 月に理学療法学科を 4 年課程から 3 年課程に、平成 23 年には言語療法学科(夜間)を廃止し、平成 24 年 4 月に言語聴覚学科(昼間大卒 2 年課程)を定員 40 名にし、最短期間でリハビリテーションの国家資格が取得できる養成施設として通算 27 年間にわたり地域の医療、福祉を担う卒業生を 2,650 人以上にわたり輩出して参りました。

今後はますます進行する高齢化社会の一方で、18 歳人口の減少等による学校の運営を取り巻く環境は年々厳しさを増す中、地域及び社会情勢の変化に的確に応じ、質の高い学生の養成や経営の基盤強化をはかるべく、平成 31 年 4 月に学校法人和風会を設立し、多摩リハビリテーション学院専門学校として東京都及び青梅市より認可を頂きました。

多摩リハビリテーション学院専門学校では、今後益々進む高齢化の中で、引き続き次世代の質の高いリハビリテーション医療技術者の養成と並行し、病院、施設等では福祉の人材不足が懸念されており、新たに外国人も含めた福祉の分野で活躍する技術者の養成に着手すべく、令和 4 年(2021 年度)に介護福祉学科を増設しました。今年度は介護福祉学科も 4 期生を迎え、更なる教育の充実と拡充をはかるものとなります。

学校法人和風会 多摩リハビリテーション学院専門学校(平成 31 年 4 月認可)

*前身 医療法人社団和風会 多摩リハビリテーション学院(平成 8 年開設)

沿革

■平成 8 年 4 月

- ・多摩リハビリテーション学院（青梅市根ヶ布）開校
- ・作業療法学科（昼間 4 年過程）開設（併設施設デイケアセンターパーク 開設）

■平成 9 年 4 月

- ・理学療法学科（昼間 4 年過程）開設
- ・健康福祉学科（夜間 2 年過程）開設

■平成 10 年 4 月

- ・言語療法学科（夜間 4 年過程）開設

■平成 11 年 3 月

- ・健康福祉学科（夜間 2 年過程）1 期生卒業

■平成 11 年 4 月

- ・健康福祉学科 昼間に移行

■平成 12 年 3 月

- ・作業療法学科（昼間 4 年過程）1 期生卒業

■平成 13 年 3 月

- ・理学療法学科（昼間 4 年過程）1 期生卒業

■平成 14 年 3 月

- ・言語療法学科（夜間 4 年過程）1 期生卒業

■平成 14 年 4 月

- ・健康福祉学科改組の為、募集停止

■平成 15 年 4 月（併設施設デイサービスセンター パークに変更）

■平成 16 年 4 月

- ・言語聴覚学科（昼間※大卒者対象）開設
- ・音楽療法研究科（昼間 2 年過程）開設
- ・ホームヘルパー 2 級、1 級 事業開始

■平成 18 年 3 月

- ・言語聴覚学科（昼間※大卒者対象）1 期生卒業
- ・音楽療法研究科（昼間 2 年過程）1 期生卒業

■平成 18 年 4 月

- ・理学療法学科（夜間 2 年過程※作業療法士／見込含 対象）開設

■平成 19 年 4 月

- ・言語聴覚学科（昼間※大卒者対象）定員 20 名→30 名に定員増

■平成 20 年 3 月

- ・理学療法学科(夜間2年過程※作業療法士/見込含 対象)廃止
- 平成20年4月
- ・作業療法学科昼間部4年課程→3年課程
- ・言語療法学科(夜間4年課程)学生募集停止
- 平成21年4月
- ・理学療法学科昼間部4年課程→3年課程
- 平成22年3月
- ・音楽療法研究科(昼間2年過程)廃止
- 平成23年3月
- ・言語療法学科(夜間4年過程)廃止
- ・言語聴覚学科(昼間※大卒者対象)定員30名→35名に定員増
- 平成24年4月
- ・言語聴覚学科(昼間※大卒者対象)定員35名→40名に定員増
- 平成25年8月
- ・ホームヘルパー2級(法制度改定により)→東京都介護職員初任者研修事業者の指定
- 平成29年5月
- ・介護職員実務者研修講座(通信)の指定
- 平成31年4月
- ・学校法人和風会 設立認可(東京都)
- ・専修学校 多摩リハビリテーション学院専門学校認可(青梅市)
- 令和1年5月
- ・介護職員実務者研修講座(通信)の指定(東京都)
- 令和1年8月
- ・生活援助従事者研修課程(通学)の指定(東京都)
- 令和1年9月
- ・介護職員初任者研修課程(通学)の指定(東京都)
- ・高等教育の修学支援(高等教育無償化)制度対象校認定(文部科学省)
- 令和4年4月
- ・介護福祉学科(昼間2年過程)開設
- 令和5年4月
- ・作業療法学科、理学療法学科、言語聴覚学科 職業実践専門課程認可
- ・言語聴覚学科 都委託訓練生1期生入校
- 令和6年3月
- ・介護福祉学科(外国人留学生含む26名)1期生卒業

名称・所在地

法人名	学校法人和風会
学校名	多摩リハビリテーション学院専門学校
法人・学校住所	東京都青梅市根ヶ布1-642-1

役員及び評議員

理事長	理事長	石田 信彦	評議員 (定数18名)	評議員	鎌田 小百合	
	理事・監事 (理事7名・監事2名)	常任理事		林 義巳	評議員	岩戸 徹
		常任理事		黒田 英寿	評議員	佐藤 議司
		理事		数野 國明	評議員	木村 欣司
		理事		石田 哲郎	評議員	半沢 寛
		理事		小澤 達也	評議員	高木 博之
		理事		田中 勇次郎	評議員	加藤 哲禎
		監事		原山 陽一	評議員	木村 洋治
		監事		田中 康雄	評議員	大山 京子
				評議員	池田 隆純	
				評議員	鈴木 康雄	
				評議員	奥山 浩太	
				評議員	池田 健祐	
				評議員	竹田 陽介	
				評議員	西片 裕	
				評議員	横濱 秀征	
				評議員	成塚 修一	
				評議員	鈴木 健二郎	

学校関係者評価委員会

委員長	鈴木 康雄	池田 健祐	竹田 陽介	高木 博之	加藤 哲禎
委員	奥山 浩太 人見 太一				

和敬清寂委員会(教職員接遇向上及び各種ハラスメント対策)

委員長	林 義巳	鎌田 小百合	佐藤 議司	木村 欣司	鈴木健二郎
委員	岩戸 徹 黒田 英寿				

②多摩リハビリテーション学院専門学校

教職員

学院長・副学院長・事務長

学院長(常任理事)	林 義巳
副学院長兼教務部長	岩戸 徹
事務長(常任理事)	黒田英寿

作業療法学科

学科長	鎌田 小百合	作業療法士
主任	中村 晃一	作業療法士
主任	横濱 秀征	作業療法士
教員	清水 誠	作業療法士
教員	庄司 麻美	作業療法士
教員	岩田 一鷹	作業療法士

理学療法学科

学科長	佐藤 譲司	理学療法士
主任	成塚 修一	理学療法士
副主任	西井 琢馬	理学療法士
教員	岩井 琢也	理学療法士
教員	鈴木 恒	理学療法士
教員	小嶋 陽香	理学療法士

言語聴覚学科

学科長	木村 欣司	言語聴覚士
主任	西片 裕	言語聴覚士
教員	鈴木 真生	言語聴覚士
教員	山崎 暁	言語聴覚士

介護福祉学科

学科長	鈴木 健二郎	介護福祉士
主任	竹内 克	社会福祉士 介護福祉士
教員	千葉 真規子	看護師

カウンセラー・心理学担当

	藤枝 幹大	臨床心理士
--	-------	-------

各種委員会委員

◎広報委員会

委員長	景山 雄介				
委員	師岡 静枝	中村 晃一	岩田 一鷹	岩戸 徹	成塚 修一
	西片 裕	山崎 暁	鈴木 健二郎	三浦 健	岩田 宏美
	関根 滉一				

◎学生生活向上委員会

委員長	佐藤 謙司				
委員	清水 誠	藤枝 幹大	山崎 暁	鈴木 健二郎	景山 雄介
	三浦 健	関根 滉一	黒田 英寿		

◎就職委員会

委員長	鈴木 真生				
委員	鎌田 小百合	岩井 琢也	小嶋 陽香	竹内 克	石黒 真也
	黒田 英寿				

◎校友会委員会

委員長	西片 裕				
委員	横濱 秀征	小嶋 陽香	鈴木 健二郎		
	榊田 史江	岩田 宏美		監査	黒田 英寿

◎学校評価委員会

委員長	林 義巳				
委員	黒田 英寿	岩戸 徹	鎌田 小百合	佐藤 謙司	木村 欣司
	鈴木 健二郎				

◎教育課程編成委員会

委員長	岩戸 徹				
委員	林 義巳	黒田 英寿			
	鎌田 小百合	佐藤 謙司	木村 欣司	鈴木 健二郎	中村 晃一
	成塚 修一	西片 裕	竹内 克	横濱 秀征	西井 琢馬
	景山 雄介	師岡 静枝			
外部委員	鈴木 康雄	池田 健祐	赤松 栄晃		
	大堀 隆二	人見 太一			

◎情報システム委員会

委員長	師岡 静枝				
委員	岩田 一鷹	西井 琢馬	山崎 暁	岩田 宏美	関根 滉一

◎医療法人社団和風会 学術委員会

委員長	鈴木 真生	
委員	庄司 麻美	鈴木 恒

在校生

学科	学年	定員	昼/夜	教室	担任
作業療法学科	1学年	40	昼	南302	中村・横濱
	2学年	40	昼	北302	庄司・岩田
	3学年	40	昼	学院ホール201	鎌田・清水
理学療法学科	1学年	40	昼	南301	西井・佐藤
	2学年	40	昼	北301	鈴木恒・成塚
	3学年	40	昼	学院ホール202	小嶋・岩井
言語聴覚学科	1学年	40	昼	北401	基幹教員
	2学年	40	昼	北402	基幹教員
介護福祉学科	1学年	40	昼	南303	基幹教員
	2学年	40	昼	南304	基幹教員

学 科	作業療法学科
入学定員充足	OTプロジェクトを定員充足プログラムと学業充実プログラムの2種に分けて始動します。既存の紹介制度入試を強化し、和風会の組織力を活かした広報を進めて参ります。高校訪問では、在校生と共に訪問ができるよう調整し、進路指導教員への印象付けを強めていく意向です。体験会やSNS等を活用しながら日々の学内実践状況を広報し受験対象者の興味・関心につなげていく予定です。引き続き地域の高校への特別授業を積極的に引き受け、介護予防講座、タマリハセミナー参加者を介した作業療法の啓蒙を行い長期的視点での定員充足にも努めて参ります。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	各学年担任2名とし学生の状況把握に注力して参ります。他学年交流を積極的に取り入れながら1年時には自主的な学習態度、2年時には専門性の理解、3年時には他者理解と自己発揮を目標とし指導いたします。新緑祭や認知症予防講座など、青梅市と連携した活動を行い地域貢献に努めます。成績不良者のみならず多くの学生の保護者ともまめに連絡を取ることで学生の学校生活のサポートを図ります。また、授業外での居場所づくりを意識した環境調整や課外活動を行い、成績低下、途中退学の防止を図ります。
国家試験対策	1年次から基礎3科目を抜粋した小テストなどを実施し基礎科目の出題傾向と重要性を学んでもらいます。2年次では専門科目の授業内で国家試験問題を積極的に扱います。3年次では早々に模擬試験で実力把握をするとともに、ICTを活用した個別指導を行います。臨床実習終了後は全学生を各教員で担当し、基礎分野・専門分野ともに効率よく学習が進むよう助言するとともに、モチベーション維持のための心理的サポートを丁寧に進めて参ります。
就職支援	他学科と同様に4月就職ガイダンスにて履歴書の書き方、面接の受け方の指導を行っています。求人数や求人時期などは安定した状況にありますが、学生の注力を国家試験対策と分散させるため、例年10月に実施していた就職活動を7月に変更しております。就職説明会は実習地に限定した病院施設に限定し、複数施設から説明を伺うことで学生のより希望に沿った就職をサポートしていきます。
校友会(同窓会)との連携	新卒対象に絞った対話型支援を計画し、卒業後も気軽に相談できる関係性づくりを大事にしていきます。また、OSCEや実技授業などに卒業生の協力を依頼し、卒前教育と卒後教育の橋渡しができるような仕組み作りも丁寧に検討して参ります。
その他	年度初めに各学年で保護者を対象とした説明会を開催し、各学年での科目数や年間計画などを説明して参ります。学生のみならず、保護者や実習先などとのやり取りは、状況に応じてメールやオンラインなどを活用し効率的かつ円滑な連携を図ります。学生面談は担任を中心に全学年で実施し、学習や対人関係・金銭面・生活リズムなど多角的な視点で学生の状況把握ができるよう注力します。

学 科	理学療法学科
入学定員充足	令和7年度の入学定員は充足しました。次年度募集も地域住民向けのセミナーの開催、体験会参加者や個別相談の増加、入学試験者の増加できるよう学科として取り組んでまいります。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	カリキュラムは3年課程です。1年次は専門基礎、2年次は専門科目、3年次には臨床実習と理学療法士になるための総復習を実施予定です。例年通り各学年担任制で各学年2名ずつ配置しております。来年度も担任を固定化し、毎年同じ学年を受け持つ予定です。実技科目は医療法人和風会のセラピストによる講義およびファシリテーターとして授業に参加して頂き、学習理解や緊張感維持のためにご協力頂く予定です。サポート体制としては新入生へは入学直後より1週間掛けてオリエンテーションの実施と在校生に向けては、学習面を中心に随時個別面談を実施予定です。来年度も実習終了後には3学年合同での懇談会、4学科合同演習、看護学校との専門職連携を実施し、幅広い交流を行う予定です。
国家試験対策	1年次より国家試験に関わる講義や小テスト、3年次を中心に国家試験対策を行う予定です。基礎的な科目となる専門基礎分野演習、理学療法の専門科目となる専門分野演習、そして実地問題の対策としての総合分野演習を行い、国家試験合格率が全国平均を上回る結果となるようサポートを行う予定です。 2024自己採点結果
就職支援	当学院において毎年春に就職ガイダンス、秋に就職説明会を実施しております。就職説明会では実習地を中心に各施設の方々にお集まり頂き、施設の情報を提供頂く予定です。また、希望者には専任教員が履歴書のチェックや面接練習を随時行い、来年度も引き続き年内就職内定率90%以上を目標予定です。
校友会(同窓会)との連携	年2~3回外部講師に講演等を行います。外部講師は全国でも有名な先生にお越し頂き、お話を頂く予定です。
その他	例年通り、入学直後の保護者説明会、在校生の保護者説明会を実施し、保護者との連携を強化してまいります。定期試験以外にも随時面談等にて学生やご家族と話し合いを持てる機会を引き続き設けます。学科教員には授業及び学生に対する指導力等の向上に向けた研修会参加、学会発表も継続してまいります。

学 科	言語聴覚学科
入学定員充足	<p>本科独自で「言語聴覚士の啓蒙」と合わせ、学科広報を行っていく。言語聴覚士を知らない志願層にはオフィシャルSNSの利用を中心に、大学、幼稚園・保育園、学童、病院サポーター病院、ハローワークなど引き続き連携を図っていく。また、学科の雰囲気や伝わるように、地域交流（介護予防講座、行政イベント、一般公開交流：STフェス）を行っていく。学校選択中の志願層や本科に興味がある志願層には、個別的な対応を徹底し、受験歩留まり率の向上を図っていく。</p>
教育(カリキュラム・学生サポート等)	<p>学習継続のポイントとなる職業動機の形成を意識し、学生に携わっていく。また、基幹教員に留まらず、病院・施設に所属する言語聴覚士と連携し、実習を始めとした教育を展開していく。毎年、一定数存在する精神的な問題や合理的配慮が必要な学生に対しては、臨床心理士と連携し、安心して学業に励むことができるよう支援する。</p>
国家試験対策	<p>学生のパーソナリティに合わせた指導を提供し、学習到達度を明確にしながら、完全個別指導を行っていく。また1年次から国家試験に触れさせ、日頃の学習の理解度を確認する材料として利用し、学業不振者については早期対応することで合格率を担保する体制を整えていく。</p>
就職支援	<p>就職委員会の支援に加え、基幹教員が就職サポートに向けた研修（職業訓練サービスガイドライン研修）を受講しているため、その知識を活かし、学生のニーズに応えられるよう、支援していく。また、学生の就職先ニーズとして「人間関係」「雰囲気」と挙げるものが多いため、就職先の情報が不可欠となっている。そのため、連携した病院の環境も把握し、情報が提供できるよう努めていく。</p>
校友会(同窓会)との連携	<p>校友会と連携し臨床現場で即実践できる内容の研修会を実施していく。関係を大事に実習地確保や志願者発掘などの協力要請も併せて行っていく。また学科として、若年（新卒者）のST有資格者向けの相談会を実施し、継続して支援を行う。</p>
その他	<p>1) 2025年度臨床実習変更承認申請（4施設：2025年2月現在）を東京都へ提出予定である。2) 2025年4月より言語聴覚士養成所指導ガイドラインが変更となる（本科は2026年4月）。そのため、2025年度、教育課程の変更承認申請を東京都へ提出予定である。また変更に向けて、新設備環境の整備、学科教員の1名増員を同時に対応していく。3) ガイドライン変更に伴い、2025年度より臨床実習指導者講習会を開催予定である。2025年度の開催は2回となっており、医療法人社団和風会を中心に連携病院・施設への参加依頼を行っていく。</p>

学 科	介護福祉学科
入学定員充足	介護福祉学科では、他学科と共に体験会、個別見学、高校訪問を実施します。修学資金に不安を抱える学生を支援していただく介護福祉士サポーター法人制度および東京都修学資金貸付制度を周知します。留学生の保証人となる法人を増やすことと近隣日本語学校との連携も継続していきます。長期高度人材育成訓練（東京都委託訓練）が利用できることを周知し社会人の入学者を増やします。SNSでの発信を継続します。入学者紹介制度の案内を致します。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	介護福祉学科では、1年次に介護に必要な基礎的知識と技術を習得し、施設実習を通じて知識と技術の統合を行います。2年次には医学的でより専門的な介護の知識を学び、根拠を基にした理解を深めます。他学科の教員が授業を担当する科目もあり連携教育も実施致します。学生サポートとして入学時から学生一人ひとりの悩みに対して支援できるように個別面談を重視します。留学生に対しては日本語教師による日本語教育を実施し学年を超えた交流や地域と交流できるような取り組みを行います。
国家試験対策	国家試験対策として、1年次には学習の基礎となる「基礎学習講座」を学び、2年次には国家試験対策として特化した科目「総合介護福祉論」を学びます。2年次に模擬試験を2回実施します。合格基準未達者へ国家試験直前までZOOMなどを利用して苦手部分を克服できるよう個別に対応していきます。
就職支援	1年時から障害者領域および高齢者領域の介護実習があります。実習を通じて多様な介護福祉サービスを知り職業理解ができるようにします。2年次には履歴書の書き方などを指導します。介護福祉士サポーター制度を利用する学生に関しては入学時からサポーター先施設でアルバイトをすることで、就職先と早い段階でつながることが出来、卒業後も安心して就職することができます。サポーター先施設と連携協力をします。
校友会(同窓会)との連携	令和5年度に介護福祉学科として初めて卒業生ができました。卒業生との連携を深めて実習先の確保や就職先の確保をします。入学者の紹介依頼や最新の介護福祉業界の動向などを情報交換することで在校生への授業にも活かしていきます。
その他	年度内に介護福祉士実務者研修1回を予定しております。介護福祉学科と合わせて地学地就ができる養成校であることを周知し地域に根差した教育をしていきます。